



2022年2月9日

各位

会社名 株式会社フジクラ
代表者名 取締役社長 CEO 伊藤 雅彦
(コード: 5803 東証第一部)
問合せ先 経営企画室長 山中 正義
(TEL. 03-5606-1112)

事業再生フェーズから持続的成長フェーズへの転換と新たな事業体制について

当社は、本日開催の取締役会において代表取締役及び最高経営責任者の異動並びに当社グループにおける組織再編を決定し、2022年4月1日から始まる事業年度より、現下の「事業再生フェーズ」から「持続的成長フェーズ」への転換を図ることといたしましたので、以下の通りお知らせいたします。

なお、お示しする各事項については、本日別途開示の資料をご参照ください。

1. 事業再生フェーズから持続的成長フェーズへ

当社グループは、2019年度の急速かつ大幅な業績悪化を受けて基本戦略を「早期の事業回復への集中」に転換し、2020年度下期以降を「事業再生フェーズ」と位置付けて全社一丸となって諸改革を推進してまいりました。事業再生計画「100日プラン」に基づき、「グループガバナンスの強化」及び「既存事業の聖域なき『選択と集中』」を重点施策として、主要事業の安定化・収益性向上を図っています。

具体的には、「グループガバナンスの強化」として、昨年4月1日より取締役及び執行役員の人数を半減するとともに、カンパニー制の発展的解消等の組織改革を実施して、責任と権限の明確化、機動的な意思決定及び効率的な事業運営を実現してまいりました。

一方、「既存事業の聖域なき『選択と集中』」として、光ケーブルトータルソリューション事業の強化、エネルギー事業子会社の売却、設備投資の厳選、拠点の統廃合、不動産売却等、様々な施策による固定費低減・事業安定化、最適事業ポートフォリオの追及に努めてまいりました。その最大の改革として、3. に示す事業を分社・再編することといたしました。

以上の取り組みを持って、事業再生フェーズ下における一連の取り組みに目途がついたものと判断したことから、持続的成長フェーズへ舵を切ることを決断したものです。

2. 代表取締役及び最高経営責任者の異動

これまで代表取締役社長 CEO (最高経営責任者) の伊藤が構造改革を、代表取締役 COO (最高執行責任者) の岡田が中核事業の推進を担っておりました。1. に記載した通り、事業再生フェーズにおける構造改革等に一定の目途がついたことから、2022年4月より岡田が代表取締役社長 CEO として当社グループを率い、伊藤は業務執行を行わない取締役会長として新体制による事業運営の監督と支援を行う体制といたします。なお、これは社外取締役が過半数を占める指名諮問委員会の答申を得て、取締役会において決定したものです。

この内容は、本日開示の「代表取締役の異動に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 当社グループにおける組織再編

エネルギー事業及び FPC (フレキシブルプリント配線板) 事業について、これまで当社の事業部又は当社の事業部と複数の子会社が協働して事業運営を行ってまいりました。今般、これら2つの事業につき、フジクラ及びグループ会社の関連する事業機能を集約、分社によりそれぞれを一つの事業体に再編して、機動的な意思決定の実現とコスト構造等の透明性向上を進めることで事業の安定化を図ることとしました。

まず、エネルギー事業については、これまでも事業構造改革を推進してきましたが、より迅速かつ市場環境に適した事業運営体制を構築、構造改革を加速させるため、これを分社・再編することとしました。このうち、現に当社が行っている送電・メタルケーブル事業を、本年10月1日を目途として吸収分割により新たに設立する子会社（当社100%出資を予定）に承継する方針としました。これにより、当社エネルギー事業のほぼすべてを子会社に移すこととなります。

なお、この概要については、本日別途開示の「当社グループにおける組織再編（エネルギー事業に係る簡易吸収分割）に関するお知らせ」をご参照ください。

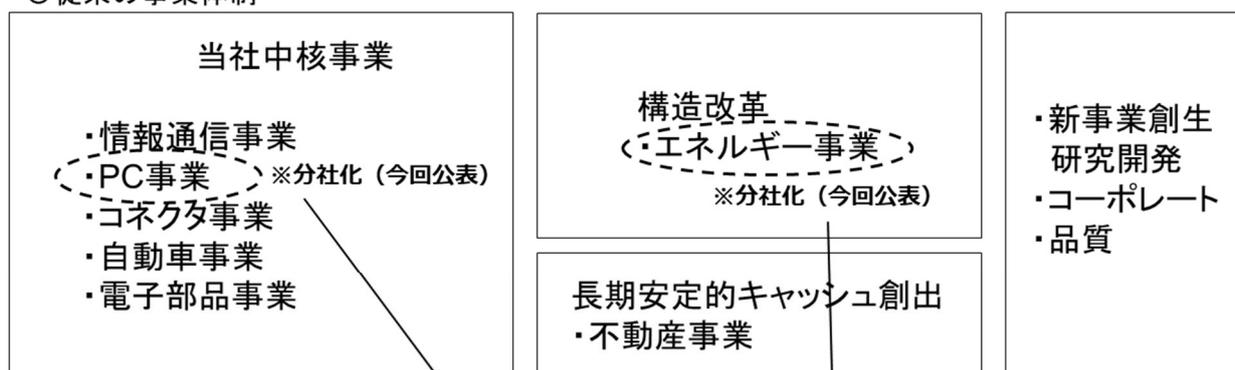
また、FPC事業については、当社並びに当社100%子会社である藤倉商事株式会社及び株式会社東北フジクラが行っているところ、吸収分割の手法によりそれぞれ新たに設立する子会社（当社100%出資を予定）に承継します。効力発生日は本年5月1日を予定しています。

なお、この詳細については、本日別途開示の「当社グループにおける組織再編（FPC事業に係る簡易吸収分割）に関するお知らせ」をご参照ください。

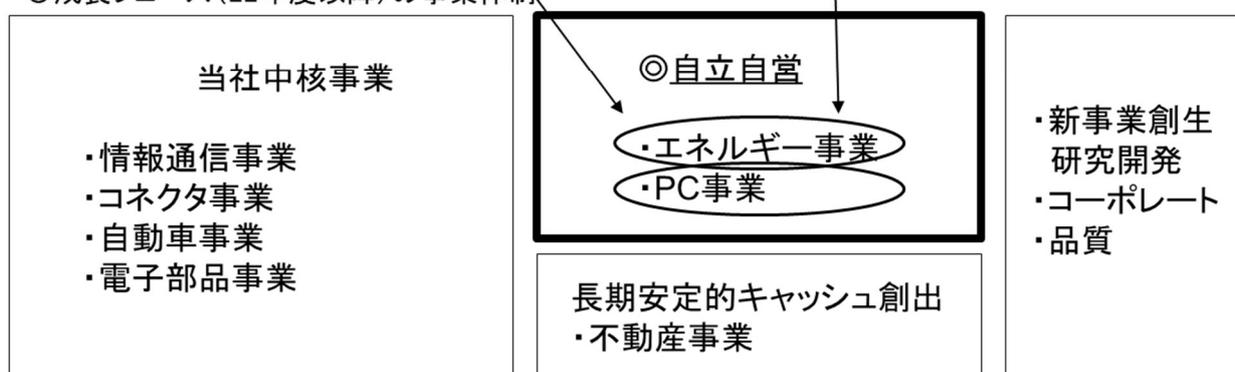
以上

ご参考：今後の事業体制及び当社が考える今後の成長について

○従来の事業体制



○成長フェーズ(22年度以降)の事業体制



- 1) エネルギー事業・PC事業については、分社してフジクラ本体から自立自営した姿を志向します。
- 2) 自動車事業については、有望なマーケットと認識しており、市場開拓を進めます。なお、既存事業（自動車用ワイヤハーネス事業）については、フジクラ本体内にて集中的に安定化に取り組んでいきます。

○今後の成長に向けて

当社は、「フジクラグループは“つなぐ”テクノロジーを通じ顧客の価値創造と社会に貢献する」、「私たちは“つなぐ”テクノロジーの分野であくなくも挑戦を続け価値ある商品及びソリューションの提供により顧客の信頼に応え社会に貢献します」との経営理念の元、情報通信、エネルギー、エレクトロニクス、自動車電装の分野において、これまで社会及びお客様に対して、決して少なくない貢献をしてきたものと自負しています。

当社の存在意義は、独自の技術をもってお客様の価値創造と社会への貢献を果たしていくことであり、それこそが当社が生き残っていくための唯一の道であると考えています。

世界では今後も大きな変革が進むとともに、多様な技術革新が起こってまいります。こういった社会の変化や技術の進展があるところには、必ずフジクラグループの優れた技術を活かせるビジネスチャンスがあると考えています。

現に当社は、情報通信事業では光融着接続機、光ファイバ・ケーブル SWR&WTC、多心光コネクタ、光ファイバケーブル、PANDA ファイバ等々、コネクタ事業では高密度多極コネクタ、電子部品事業では高精度 HDD 用部品、極細同軸ケーブル、高性能サーマル製品、圧力/酸素センサ、高付加価値メンブレンスイッチ、PC 事業では高精細/高密度 FPC や多層 FPC 等々を有しており、これらはお客様から高い評価と信頼をいただける世界レベルの技術であると言えます。

また、自動車向け事業においては、主力商品のワイヤハーネス自体は差別化が難しいながらも、CASE と呼ばれる 100 年に一度と言われる自動車の大変革の中、当社は優良な顧客基盤と世界に広がる生産拠点を有して

おり、グループ内で保有する世界レベルの技術・製品を組み合わせることで、多くのビジネスチャンスにつながるものと考えています。

さらに、当社は、高度なモノづくりを支えるための様々な基盤技術を有しており、こういった基盤技術と各事業部門固有のユニークな技術を融合させることによっても、新たな事業創出の可能性があると考えます。

当社は 2030 ビジョンとして、“Advanced Communication”、“Vehicle”、“Life-Assistance”、“Energy & Industry” を注力すべき事業領域と定めており、これらの領域では今後も大きな変革が進むとともに、多様な技術革新が起こってくるとみています。

その中でも特に、“Advanced Communication” の領域では、光ファイバ敷設（光化）による情報通信基盤整備が世界的に進む中、コロナ禍におけるリモート環境の定着による通信容量の飛躍的な増大がさらなる追い風となっています。また、近年の電子製品そのものの性能向上・技術進歩はとどまるどころを知らず、処理可能な情報量も大幅に増大しています。当社の強みを最大限に活かせる核心的領域です。

当社は、中長期に亘るグローバルの環境変化に耐え、以上4つの領域を見据えながら将来の顧客の変化を想定し、将来の顧客価値創造につなぐ革新的技術開発を目指してまいります。

今後、当社グループの持続的成長に向けて、役職員一同、新しいフジクラの創造のため、変革に向けた不断の新陳代謝を促す行動を起こし、優れた技術を顧客価値創造につなぐことで、社会貢献を果たしてまいります。

そのような行動の結果としてお客様含めステークホルダーとともに栄えることが出来る利益の享受につながると確信します。

以上